



イエス団報

Jesus band news

2018/12/24

21

再刊 21 号

- 人物探訪
梅村貞造さん
(元一麦保育園園長)
- 研修報告
- 施設紹介
光の子保育園（徳島県）
桃陵乳児保育園（京都市）
- トピックス
天使保育園 園舎建替え
馬見労働保育園 日中一時支援事業
港島児童館 指定管理を受けました。
- J.B.フェローズ活動報告
- イエス団の輪つ
上内 鏡子さん
阪口 陽子さん 須藤 恵子さん
木本 敦子さん 木村 ともさん
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2018年12月24日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL : 078-221-9565

FAX : 078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>

mail to : honbu@jesusband.jp

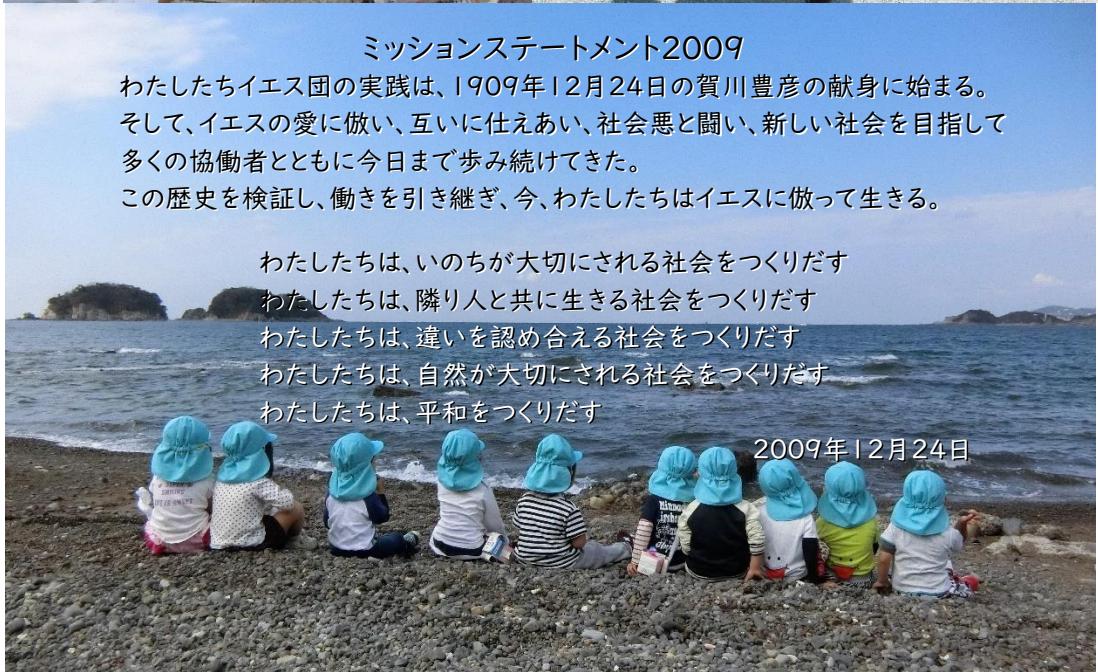


ミッショントートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

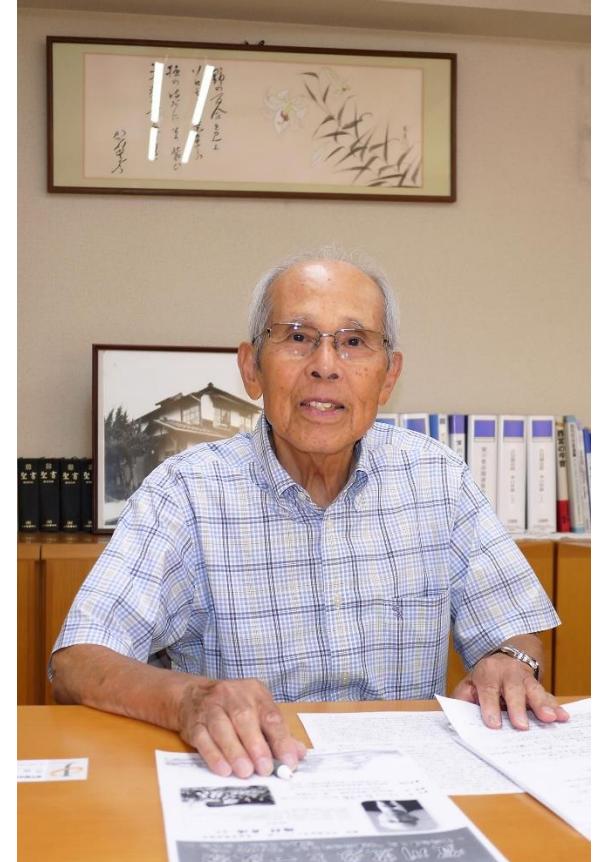
わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日



人物探訪

元一麦保育園園長 梅村貞造さん



梅村貞造

うめむらていぞう

1929年上海生まれ

1935年から現在に至るまで西宮市に在住

1951年京都大学薬学部卒業

1992年から2007年まで一麦保育園の園長を務める

イエス団報では、賀川豊彦先生のキリスト精神を継承された先達の方々を紹介してまいりましたが、賀川先生の生前の姿をご存知の方が圧倒的に少なくなつてまいりました。賀川先生と直接ふれあつた方からお話を伺うことで、賀川先生をより身近に感じられればと願い、今回は1992年～2007年の15年間、一麦保育園の園長を務められた梅村貞造さんにお話を伺いました。梅村さんのライフヒストリーを通して、賀川先生のこと、西宮一麦教会・一麦保育園のことなど、貴重なエピソードをたくさん聞かせていただきましたのでご覧ください。

生まれ

中国上海で1929（昭和4）年に生まれました。上海事変が起つたその頃ですね。私の父が銀行員で上海支店に転勤になり、妻春江と共に上海に渡りました。

私が5歳になった頃、父がジャカルタへ転勤になりました。小学校入学を控えていましたので、父はジャカルタに単身赴任し、母と私たちは1935（昭和10）年から西宮で暮らし始めました。当時は瓦木村と呼ばれていました。小学校は瓦木小学校。後から分かったのですが、賀川先生がこちらにいらっしゃるときに、賀川純基さん（賀川豊彦先生の長男）も瓦木小学校に、私の生まれた年（1929年）に入学されました。阪神淡路大震災（1995年）があったときに、純基さんは被害状況を視察するため、あちらこちらイエス団の関係施設を回っていました。ちょうどそのとき純基さんにお会いして、色々話しているうちに「僕も実は瓦木小学校なんだよ」と言われ、「えーっ」と驚いて、不思議なご縁を感じた次第です。賀川先生とのご縁のひとつですね。

賀川先生との出会い

中学校は神戸まで阪急電車で通学、高校は当時旧制高校というのがありまして、全国に35校くらいあるうちの高知の高等学校へ入学いたしました。その頃既に大東亜戦争が激しくなつており、父に「少し田舎へ行って、いろいろ経験してこい」と言われ入学しました。ところが、入学試験を受けに行ったときには無事存在していた高知の街が、その後敗戦直前になって空襲に遭い、いざ入学するときには高等学校が丸焼けになつているという苦労の3年間を高知で過ごしたわけですが、実はそこで賀川先生との出会いが始ました。校舎はすっかり焼けてしまつたが、南溟（ナメイ）寮だけは残つておりましたので、寮に入って畳座敷で寺子屋教育のような授業が続いていました。ある

日、焼け跡の街を歩いておりますと、「賀川豊彦講演会～宇宙を通して神を見る～」と書かれたポスターが電信柱にぶら下がり、風に揺られていました。それを見て、賀川豊彦という名前が目に留まりました。実は母が大阪のウキルミナ女学校（現大阪女学院）の卒業生で、在学中に賀川先生が来られて講演を聞いたのだという話を耳にしていましたから、そんな有名な先生の話だったら聞きたいなと思って行ったのが先生との最初の出会いです。

そして、11月15日だったかの（自身の）日記に「賀川豊彦先生の講演を聴いた。非常に感動して、これからもいろいろ勉強してみたいと思う」と書いているんですね。

教会に通つて

その後、高知高校を卒業し、京都大学薬学部に入って学びました。京都にいる3年間、大学の吉田寮にいたので、日曜日は割合時間がありました。近くの同志社大学には毎週礼拝する大きなホールがありましたし、同志社に行く道の手前には丸太町教会もあって、そこへ顔を出すようになりました。

賀川先生から種を蒔かれた後に、自分で求めて、同志社の教会にも丸太町教会にも何回も行きました。大学を卒業し、社会人としてスタートするにあたって、自分の立場というか信仰というものをはっきり持っておきたいという気持ちで、丸太町教会で洗礼を受けました。そのときの丸太町教会の牧師が安田忠吉牧師です。後から分かったことですが、安田忠吉牧師は三重県山田のご出身で、山田中学校では吉田源治郎先生の1、2年先輩にあたります。これまた不思議なご縁で、私の父も三重県の鳥羽出身で山田には知人がいます。そういうことにも不思議なつながりを感じます。

洗礼を受けたあと安田牧師から「これからどうするんだ？」と聞かれました。実家の近くに一麦寮というのがあるて、賀川先生が時々来られて講演をされたり、礼拝をされたりしているようだと言うと、「ぜひこちらに行きなさい」と言われ、丸太町教会で受洗後すぐに西宮一麦教会への転入会の手続きを取つていただき、西宮一麦教会に加わりました。

西宮一麦教会・一麦保育園

西宮一麦教会は戦後1947（昭和22）年に吉田源治郎先生が始められ、一麦保育園の中で礼拝を守つてゐるところに、ぼつぼつと人が集

まつくる状況でした。私も1951（昭和26）年に転入会をして、吉田先生、また賀川先生が来られたときには賀川先生からいろいろと指導をいただきました。

教会では賀川先生が毎年、新年の3日間或いは4日間、イエスの友会の冬期福音学校というのをやっておられました。150人～200人くらいの方が集まって、指導者の賀川先生も含め、一部の方は一麦寮と一緒に寝泊まりして福音学校が続けられていました。そういうことのお手伝いを毎年しているうちに、（私も）だんだん一麦の住人のような感じになっていきましたね。

大学卒業後は国家公務員として23年間勤め、その後企業で17年間働きました。その頃、一麦保育園の園長で、西宮一麦教会の役員でもある埴生操先生という方がいらして、園に住み込んでキリスト教保育を一生懸命実践されていました。賀川先生は関西に来られるたびに、埴生先生を指導されたり、色々相談に乗られたりするご関係でしたので、私も埴生先生からよくお話を伺っていました。

その後、埴生園長が亡くなられ、次の園長に一麦保育園の元保母だった椿本美代さん（現在はご結婚されて中野美代さん）が就任されました。鳴門に住んでおられたのですがイエス団からもお願いしてもらって、こちらに単身赴任で来てくださいました。5年間園長を勤められた後、中野先生が退職されることになり、後継者として私にイエス団からお薦めをいただき、中野先生の後15年間園長の役目を果たさせていただきました。

在職中に苦労されたことは？

阪神淡路大震災で園舎がたがたになって、そういった中で復興作業をしながら保育を進めていきました。職員の家も損壊しましたが、苦しい中でも出てきて保育を続けてくれたことに感謝しています。

その後、保育園の横に新館と教会を建設しましたが、そのときも苦労がありました。建築関係の苦労をさせていただいたという感じですね。それもまた神様からの恵みのひとつだと理解しています。



賀川先生との交わり

賀川先生が年に数回東京からこちらに来られて、一麦寮にお泊りになられると、大勢の人が先生に相談や指導を仰ごうと来られ、色んな人の出入りがあるわけです。そんな折、吉田先生から「賀川先生にメッセージを届けてくれ」と頼まれて部屋に出向くと、賀川先生のほうから「ご苦労さん」と握手をしてくださいました。その握手の手の感触が、温かい、人を包み込むような手でした。

それから先生にご無理を言って自分の聖書の裏表紙にサインをお願いしました。賀川先生はサインといつても、筆でシュッシュッと書かれます。それで、墨と筆を持ってきなさいと言われて持つて行くと、さらさらっと

「汝死に至るまで忠実なれ 賀川豊彦 梅村貞造君」というふうに書いていただきました。感激してずっと大事にしていたのですが、阪神淡路大震災で私の家も全壊し、せっかく大事にしていた聖書も瓦礫の中に埋もれてしまいました。探し出すこともかなわず、瓦礫ごと持って行かれてしましましたので、せっかくの先生のサインをお見せできず、私も非常に残念な思いです。そういうことが先生との出会い、交わり、交わりと言っては恐縮ですが、歴史です。

賀川先生から教えられたこと

先生は雲の上にいらっしゃるような存在でしたから、大勢の方が相談やお願いに来られていました。色々な方々の出入りがありました。すごいなあという思いで見ながら、少しでも先生に近づきたいという感じでした。

贖罪愛

先生から直接伺った話があります。ひとつは「贖罪愛」について。「クリスチャンたるもの下座奉仕をせにやならん」と先生は仰っていました。下座奉仕の例としては、お母さんが赤ん坊のおむつを替えること。先生は尻ぬぐいと仰いますが、無償の愛そのものを指します。キリスト者の奉仕というのは、無償の愛の奉仕でなければならないと話してくださいました。

信仰即実践

2つ目は「信仰即実践」というもの。聖書にはこう書いてあるなど色々言われるけれども、信仰というのは同時に実践も伴わなければ、本当の信仰ではないと仰っていました。譬え話として、これも非常に印象に残っているのですが、「火災が起って鐘が鳴り、消防車が走っている」とします。こういう状況の中でクリスチャンだったらどうするか。クリスチャンだからと言って神様に祈るだけでいいのか。自分だったらいち早く現場に駆け付ける。まず第一にですね。そして消防ポンプを押しながら祈るのだ」と。具体的で非常に分かりやすい例です。

キリスト者は祈祷を大切にします。そしてそのことが実現されることを信じて祈ります。しかし、それだけで何も手を汚さないというのは本当の信仰ではない。やはり自ら消防ポンプを押しながら祈ることが大切だとおっしゃっていました。

先生の著作の中に「身辺雑記」というものがありますが、その中にこんな文章があります。「キリスト教がただ、主よ、主よと言うのみの宗教になることを私は恐れる。主よ、主よということは易しい。しかしキリストの戒めを守ること、そのことがキリストの弟子になる最大義務であることを思わなければならない」このように先生は行動（実践）を伴わない信仰はあり得ないものと考えておられました。これが賀川先生の真骨頂だったと思いますね。

キリストに倣う生活

3つ目が「キリストに倣う生活」。賀川先生は清貧の生活を旨とし、また進んで弟子たちの背中を洗われました。「キリストに倣う生活」を実践し、弟子たちに見せられたのだと、先生と研修会や福音学校で宿泊を共にされた多くの人たちがその体験を語っています。牧師であり詩人であった河野進先生が、「説教を見る」という詩をつくっておられます。賀川先生と一緒にお風呂に入ったら、先生のほうから先に弟子の背中を洗つてくださる。そういう先生の姿を見て、「説教しない先生から忘れる事のできない説教を見せられる」ということをこの詩で言っておられます。

祈りの生活

それからもうひとつは祈りの生活ですね。優れた伝道者であれば誰でもそうであるように、賀川先生は祈りの人でした。先生の祈りについてもたくさんの方が書いておられますけども、先生の伝道にいつも同行しておられた黒田四郎牧師は、「先生は旅先でも実によく祈る人であった。少し音がして目を覚ますと先生はよく祈っておられた」と述べられました。常に祈りの人でありました。

こういったエピソードから私自身も学びましたし、実践が大切だということを教えてもらいました。



わたしたちイエス団の職員として変えてはいけないことは何でしょう？

実際の実務の中で様々な問題に直面されて、苦労を共にしながら活動することによってお互いが向かい合って親しくなり、信仰が増し加えられていくということがあろうかと思います。

私がイエス団に加わった頃に比べますと、事務局も充実してまいりましたし、組織としても非常に強力になってまいりました。特に賀川豊彦誕生100年を経て「イエス団憲章」がしっかりとつくられ、さらに献身100年には「ミッションステートメント2009」が組織としてきちんと備えられたということは素晴らしいです。また、組織の基本としてあるべき姿を備えているという意味では、他に引けを取らないものだと思います。私も役所勤め、会社勤めをいろいろ経験してまいりましたけれども、福祉事業においてもこういうものがしっかり確立されているということは大切だと思います。

私たちイエス団に連なる職員へのエール

「前進するイエス団」、「Keep On Going」という言葉を差し上げたいと思います。

前進するイエス団

「前進する教会」という標題で西宮一麦教会の創立20周年記念礼拝のときに、吉田源治郎牧師が力強く説教された記憶が残っております。「前進する教会」、教会というのはじつとしていてはいけない、絶えず前進して、さらに具体的な行動にそれを表す。それが前進の本当の意味であると吉田先生が述べておられます。だから私もイエス団に「前進するイエス団」というエールを送りたいんです。フレッ！フレッ！イエス団！

Keep On Going

そして「Keep On Going」これもいい言葉だと思うんですね。「進み��けよ！」これは105歳で昨年亡くなられた日野原重明先生が最後に出された本に「進み��けよ！Keep On Going」と書かれてあるのですね。ああ、これはいい言葉だなあとと思って、どんどん前進していくイエス団になるために、それじゃあその中の一員である自分は何をしたらいいのか。どんな考え方で、どういう活動をしたらいいのかということをお互いに考えながら、ひとつ是非「前進するイエス団（Keep On Going Jesus Band）」であってほしいなあと思います。

10の質問

1. 好きな言葉

好きな言葉というのはいろいろあります。私の人生観の基になる言葉がいくつかあり、それは学校生活で偉大な先生に出会った、あるいは教えられたという中から出てきたものです。

ひとつは私が卒業した旧制高知高等学校のモットーです。初代校長が残した言葉に「感激あれ若人、感激無き人生は空虚なり」というのがあるんですね。実に素晴らしい。感激というのはそれぞれの場面でそれが体験することですが、感激する心を忘れてはいけない。それがある限り人生は常に新鮮で前向きだということです。「無感激人生空虚」という言葉を私の家の座敷の掛け軸にしています。毎朝目が覚めたら目の前に掛け軸があるものですから、感激のあるいきいきとした日を今日も送りたいという気持ちで目覚めて1日が始まるわけです。

2. 嫌いな言葉

関西弁で言えば「もうあかん」という言葉。これはやっぱり、あきませんな。これは聞きたくないなと思います。

3. 好きな音

ヨーロッパの諸国を僅かですが旅行したときに、大きな教会を巡りました。そのときに聞いた大聖堂の鐘の音ですね。それから、教会のパイプオルガンの音も好きな音です。

4. 嫌いな音

ゴミ収集のトラックの音など、いいイメージにつながらない音は嫌いですね。

5. 好きな手触り

手で触って、好きか嫌いか判断したことはないですが。賀川先生と

握手していただいたという話をしましたが、先生の手というのはふわっと柔らかい。柔らかくて、温かくてね。それは賀川先生と握手した人はどなたも言っておられますね。それが好きだと言うと変ですが、温かく、柔らかい、非常に包み込まれるような手触りでした。自分もそういう握手ができるような人になれたらしいのになと思います。

6. 嫌いな手触り：—

7. 今の仕事に就いていなかつたら？

筆耕。字を書くのが好きですから、看板を書いたり、賞状を書いたり、手紙を代わりに書いたりする筆耕という職業があります。それなら趣味に合っているらしいな。私の父も習字が好きだったのです。今でも思い出しますが、結核で45歳で亡くなる前、寝ている部屋を覗きに行くと、机に座っていつも字を書いていました。

心理カウンセラーになりたいなあとも思って、定年で辞める4、5年前からカウンセラーの勉強をするようになりました。これは色々と役に立つと思います。悩みを共にし、話を聞いてあげることも性に合っているかなと思います。

8. なりたくない職業：—

9. 好きな色

グリーンです。一麦の麦の穂の色ですね。私が園長のときは保育園のいろいろな作り物の表紙は薄緑の紙を使うようにしていました。力強さ、新鮮さ、希望というのが感じられる色だと思っています。

10. 天国で神様に何と言われたい？

「善かつ忠なる僕よ、汝よくやった」というふうに褒めていただければ嬉しいなあと。しかし、今の自分が急に神様の元に召されて行つて、本当にそんなふうに褒めて頂けるのかなあとはいつも思います。

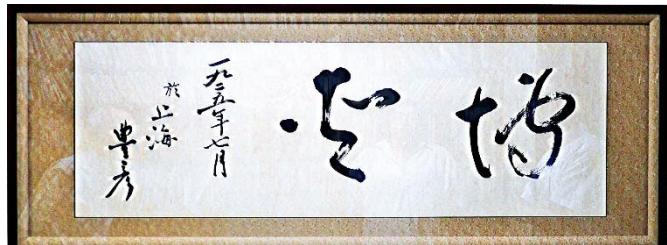
つい一週間前に実の妹が亡くなりました。長らく床に就いていて、しみじみ辛いなあと思います。聖公会のクリスチヤンなんんですけど、亡くなつて神様の前に呼び出されたときに、何と言われるのかなあ、そんなことを色々考えさせられた一週間でした。「常に喜べ、絶えず祈れ、全てのことに感謝せよ」という言葉が聖書にありますが、そういう信仰生活を続けていけたらと思います。

お話を聞かせてください

長時間のインタビューとなりましたが、丁寧な言葉でお答えいただき、お話を端々から梅村さんの真面目でまっすぐなお人柄を感じました。「賀川先生から教えられたこと」で話していただいた内容や、私たちへのエール「前進するイエス団」、「Keep On Going」という言葉からも、イエス団が信仰と実践の両方を大切にして歩んできたことが分かります。今イエス団で働く私たちも、このことをしっかりと心に留めなくてはいけないと思いました。梅村さんのお言葉にあるように、「前進するイエス団になるために自分に何ができるのか」を常に考え、行動に移しながら日々の業務に取り組んでいきたいです。



←インタビューに際し、
賀川先生に関する資料
などを準備していただきました。



↑西宮一麦教会に飾られている賀川先生直筆の言葉「博愛」。

研修会報告



参加者と共に：新任職員研修会

新任職員研修会

2018年3月26日（月）～3月27日（火）
於：六甲山YMCA

2018年度の一泊新任職員研修会は、例年通り自然豊かな六甲山YMCAで開催しました。

研修テーマは、

1. 「イエス団の理念を理解し、職員としての使命を考える」
2. 「感じる、考える、気づく、伝える、聞く、分かち合う事の大切さを学ぶ」
3. 「新しい職場に入っていく準備をする」の3本柱とし、これからイエス団で共に歩んでいく新任職員37名、フェローズ11名、理事3名、スタッフ6名、の総勢57名が共に祈り、共に交流する中で学びを深めました。



最初のアイスブレイク

奨励に、神戸イエス団教会牧師、上内鏡子理事から「神の国が目指

すもの」と題して「イエス団の働きについて」「教会の働きについて」メッセージをいただきました。

研修の講師にイエス団のことをよく理解してくださっている、シチズンシップ教育企画代表の川中大輔先生をお迎えして、多くのセッションを5～6人のグループに分かれ体験しながら、自己開示から自分らしいミッションステートメントを掲げるまでを導いてくださいました。その中にフェローズの皆さんも入っていただき、さまざまな不安をかかえて研修に臨んだ新任職員の身近な話し相手となり心の支えとなってくれました。



辞令交付式

2日目のセッションでは平田義施設長、田村三佳子施設長から聖書と実践を通して「イエスに倣って生きる」「いと小さきものにつかえる」とはどういうことなのか、イエス団が何を目指し、何を考え、大切にしているのか、私たちは「その人がその人らしく生きる社会をつくり

出す」ためにどのような働きが必要なのかをお話していただき、イエス団の使命を深く考えさせられました。

閉会礼拝では黒田道郎理事長より「主イエスの命令」互いに愛し合いなさいという神の愛についてメッセージをいただきました。

「あなた方が私を選んだのではない。私があなた方を選んだ」

神様によって集められた一人ひとりがこの出会いを大切にし、志を一つに笑顔と感謝する気持ちを忘れず、それぞれが掲げたミッションステートメントを胸にこれから歩んで行って欲しいとスタッフ一同心から願っています。



今回参加のフェローズ

報告：企画委員会 研修担当チーム
瞳保育所 所長 三谷 恭子

ブラッシュアップ研修会

2018年6月8日（金）～9日（土）
於：六甲山YMCA

先日の寒い朝だった。「毛嵐（けあらし）」という現象を始めて見た。その時は、そんな名前すら全く知らなかった。その日は、関わっている利用者さんが不安定気味のために、朝の6時30分に自宅を出て、その人の所に向かっている途中だった。子どもの頃から見馴れている川沿いの道に車を走らせながら正直「こんな朝から・・・」と思いながらだった。

ふと、左側に流れているいつもの川を見ると、川面から湯気が立ち上がり、それが列をなして動いている。まるで生き物のように繰り返し何度も何度も。見入ってしまうというより、圧倒されてしまった。この川を40年以上何気なく見ることはあったが、こんな姿を見たのは初めてだった。川が確かに生きていると思った。



私の施設のハッピーニュースを発表する参加者

今回のブラッシュアップ研修会へのスタッフとしての参加は久しぶりだった。経験年数が10年近くのリーダーシップ養成研修会ステップIの参加者とは違い、プログラム当初は参加者のその表情にも戸惑いや不安の顔が見られた。プログラムが進む中で、参加者同士がお互いの話を聞き、自らも語ることで、自分の考えが整理されるというか、自分自身が整えられていく。参加者自身の表情も明らかに変化していく。

普段の現場から離れ、六甲山という非日常の中で、いつもの人間関係ではないその場だからこそ、できると言えばその通りである。むしろ、人にはそんな時間が必要ではないだろうか。しかしその「場」だけではだめなのだ。そこに必要なのは、人との出会いである。「自分一人だけではないんだ」という思いの共有の出会いである。だからといって研修後に、参加者全ての表情から不安が消えるわけではない。「誰かと比較するのではなく、自分は自分でいいんだ。明日からもまた頑張ってやっていこう」と、そんな気持ちに少しでも、なってくれたらと祈りながら研修スタッフは送り出す。これが一時的な頓服薬であっても、それが今必要な時だったんだと思う。

この研修から戻った職員はいつも見馴れたこれまでと同じ表情かもしれない。しかし、その奥には、まだ見せていないかもしれない顔を、いろんなことを学んだ顔を持っているに違いない。それは一体どんな時に見せてくれるのだろうか。気づいて欲しい。毛嵐がいつも見られるものではなく、一定の気象条件でしか見られないように、一人一人の職員がそのタラントを活かされる職場を、次はどう創っていくかが問われる。

今年度もそれぞれ大変な中で、現場から多くの参加者を出していただけてありがとうございました。



参加者と共に：ブラッシュアップ研修会

報告：企画委員会 研修担当チーム
支援センター「あいりん」 太田 正人



リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2018年9月13日（木）～9月15日（土）

座学：在日韓国基督教会館（KCC）

フィールドワーク：生野の街

社会福祉法人愛信福祉会 愛信保育園

NPO法人サンボラム 在日コリアン高齢者支援センター 大池橋サンボラム

NPO法人うり・そだん デイサービスさらんばん

NPO法人出発（たびだち）のなかまの会

一昨年同様、大阪生野をフィールドにして2泊3日の研修を行いました。2日目は生野地域にある保育園、高齢者施設、障がい者施設に分かれて現場体験をし、3日間を通して川中大輔さん（龍谷大学社会学部専任教員）に講師を担当いただきました。参加者は先ず、イエス団理事で聖公会生野センター総主事の吳光現（オクアンヒョン）氏に案内していただきながら、生野という町はどのような歴史の中にあり、人々はどのような生活をされているのか、朝鮮市場（御幸通商店街・コリアタウン）や戦後の闇市のあとを残している「鶴橋国際マーケット」などをゆっくりと歩きながら、街に息づく匂いや空気、飛び交う言語などを五感で感じたのではないでしょうか。街を歩いているとそれぞれの家の表札に目が留まります。本名だけの表札、日本名だけの表札、本名と日本名が併記されている表札、これは元々1941年に強制的に実施された創氏改名から始まったもので、このようなところからも「在日韓国朝鮮人」の生活の実態が垣間見ることができます。

私は毎年沖縄を訪れ、一人の女性と交流を持っています。その女性は1945年前後の沖縄戦で、平穏に送っていた生活が一変し、「いくさ（戦争）がやってきたー」と表現して、私たちに戦争当時の「地獄絵図」を写真などを通して伝えて下さいます。言葉を奪われ、土地を奪われ、家族を奪われた経験（本人以外の家族6人が米軍によって殺害されました）は、どんなに精神的な強さを持った人間にとっても耐え難い経験となるでしょう。そのつらい体験を涙しながら私たちに語って下さる姿が、今回お話しをいただいた宋福姫（ソンポッキ）さんとダブってなりませんでした。



在日一世の宋福姫さんと「さらんばん」の施設長の鄭貴美さん

宋さんの故郷は済州島（チェジュド）、裕福な生活ではありませんでしたが平和で穏やかな時を過ごすことができた島、ある時から一変、1948年4月3日済州島が“地獄へと変化した”と表現されています。銃声が響く中、家々は燃やされ、軍隊は人のいのちを平気で奪っていく、そんな戦争状態にある済州島の「4.3事件」を体験されました。1948年に命からがら日本へと逃げ出して、現在は東大阪に住んでおられデイサービスセンター「さらんばん」を利用されており、今回「さらんばん」の施設長の鄭貴美（チヨンギミ）さんと対談形式でお話をいただきました。名前を奪われ、言葉を奪われ、人格を変えられ、土

地を奪われ、そして“いのち”まで奪われるような体験を、あらためて第三者に語る辛さが、沖縄の女性と重なり合うのでした。今現在ゆったりとした生活をされている二人の歴史には、多くの「負の歴史」が重なります。またそこには排除される人が生み出される社会構造が見えできます。私は時折考えます。イエスならこの二人の方々にどの様に接するのだろうか。優しく語り掛け、寄り添い、共に歩まれるイエスの姿が想像できます。そして私ならどうするのだろうか、あなたならどうするのでしょうか。



グループワークの様子

たくさんの出会いと学び、様々な気づきときっかけが与えられ、想像力に磨きが与えられたリーダーシップ養成研修会ステップⅠとなりました。

報告：企画委員会 研修担当チーム
ぶどうの木保育園 木村 耕

『2018年度の研修会をふり返って』

新任職員研修会に参加された皆さん、お元気ですか。

ブラッシュアップ研修会、リーダーシップ養成研修会ステップⅠの参加者にとっては、まず現場を離れて研修の場に出かけていくということに「わたしが？」というような思いを抱かれたことと思います。そうです「わたし」が選ばれたのです。

日常の生活から離れ、自分と向き合うことができたことが、次のステージに向かうために必要でした。そう感じていただければ幸いです。

わたしは、この夏思いもかけない出来事が起きました。そのことにより、「寄り添う」ということを自分のこととして学びました。そして、「誰に寄り添うのか」「どのように寄り添うのか」研修会を通して考えました。

現場に戻るとまた日々の忙しさに追われたことでしょう。

どうぞ「自分」を大切に。そして、施設で関わりを持たれている方々や同僚の仲間に寄り添う日々でありますようにと願っています。研修会に参加された皆さんも、これから参加される皆さんも、ご活躍をお祈りしています。

報告：企画委員会 研修担当チーム チーフ
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子



施設紹介

光の子保育園

データ

〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井 556 番地 5

TEL : 088-674-2530

<http://www.hikarinoko.net/>

1956 年に始まった光の子保育園の歩みもすでに 60 年を過ぎました。

今年は 99 名の子ども達をお預りしています。徳島県は四国にありながら、関西圏との結びつきが強く、県外流出に伴う人口の減少が止まらない県です。光の子が建つ石井町も緩やかな減少傾向にあります。小学校入学前は幼稚園でないと…という保護者意識が根強く残っている町でそれでも光の子がいいって言ってくださる家庭もあり、定員を欠けることなく保育を続けられていることは感謝です。

数年前から子育ての環境が激変する一方、その当事者である子どもや家庭・保護者が抱える課題は以前とほとんど変わらず、制度に取り残される家庭があることを心配します。そうした表面化し難い困りごとを抱えた人たちの受け皿であることが、私たちの使命ととらえ、過去の先人方が努力して作り上げた児童福祉施設としての保育園の働きを続けたいと考えています。スタッフは 19 名の保育職員(看護職含)、4 名の調理職員(栄養士含)と施設長の計 24 名で保育に当たっています。



花の日礼拝 牧師先生が毎週聖話をお話に来てくれます

毎週 1 回、母教会の牧師先生(法人理事長)の乳幼児礼拝と職員会での聖書学習を通して、イエス団が大切にしている賀川精神・キリスト精神を常に再確認し合っています。



夏祭り 卒園生がたくさん訪ねてくれます

卒園生がお父さん、お母さんになってお子さんをお預りするケースも多くなりました。また、夏休み最初の土曜日に開いている夏祭りは、「ホームカミングディ」としてすっかり定着し、8~90 人の卒園生(主に小学生)が来てくれます。在園児と合わせると子どもだけで 200 人弱。保護者も加えると 300 人近くが集まって、にぎやかに夏のひと時を過ご

しています。あちらこちらで違う小学校に進学した子ども達同士、保護者同士が再会を喜び合う場面がみられる行事となっています。



二歳児と地元高校学生との交流授業

地元県立高校の家庭科授業の一環として、高校に二歳児が出かけ、一・二年生と一緒に触れ合って遊ぶプログラムを実施しています。

また地域子育て事業を実施している NPO 法人とは通年の活動として「光の子文庫」を設置し、本園図書室の蔵書から百冊程度を選んで貸出をしています。園長が一年に一回、「子どもと絵本」をテーマに講演に出向く活動も続けています。



NPO 法人主催の子育て支援活動



クリスマス祝会 全園児参加の聖誕劇

建築後 40 年を超えた施設で老朽化は否めず、建物を含めて保育園の将来を考えなければならない時期にあります。そんな矢先、町道をはさんだ約 1000 m² の土地売却の申し入れがあり、法人本部と協議、理事会承認を得て購入することにしました。今後は地域の皆さん、職員、保護者の皆さんと共に地域に愛され、さらに信頼される保育園を目指して話し合いを積み重ね、100 年に向けた光の子保育園を考えてゆきたいと願っています。

園長・黒田信雄

桃陵乳児保育園 桃陵保育園

データ

〒612-8104 京都市伏見区西奉行町1

TEL : 075-611-3307 FAX : 075-612-1421

E-mail : toryo@mbox.kyoto-inet.or.jp

○あゆみ

桃陵乳児保育園は、1965年4月、産休明けの0歳児から2歳児までの60名と、8時から18時の長時間保育をおこなう保育園として開園、そのあゆみを始めました。

その後、地域のニーズに応えるため、幼児30名と学童保育を実施、1973年には、京都市との厳しい交渉によって、3歳児から5歳児までの桃陵保育園が開園しました。

それから53年。今では、桃陵乳児保育園で0歳児から3歳児までの約100名と、桃陵保育園で3歳児から5歳児までの約100名、10数名の学童の子どもたち、そして両園あわせて33名の職員と24名の非常勤職員で日々過ごしています。



桃陵乳児保育園の起工式

中央は賀川ハル 第二代イエス団理事長

○環境

園舎の近くには桃山御陵や宇治川、色とりどりの紅葉が美しい大きな公園があります。大きなグランドもあり、その端には木がうつそうと茂る小さな森があって、格好の探検場所、そこで拾った落ち葉や木の実、ドングリなどを、毎年、キリスト教保育所同盟の秋の福島研修でお世話になる園に届けています。



創立50年を迎えた桃陵乳児保育園 2015年10月の記念バザーでは

50人の職員総出でオープニングを飾りました

右端は木村量好 淳子夫妻

○私たちが大事にしていること

園創立以来、「共に生き共に育つー平和を見つめて」を私たちの園の総主題として掲げています。保育とは、子どもを一人ひとりに違う主体として受けとめ、様々な仕方で応答し「会話」すること、そのための出会いや環境を整えていくことをする営みです。そして、そのためには私たち大人自身も他者の思いに気づき、受けとめるものでなければならないと考えています。人は“ひと”との関わりの中で生き、育ちます。そんな、いわば当たり前のことを、この時代にあえて私たちの保育の根っことして掲げています。

○イエスに倣う

私たちは、このような考え方のベースに、キリスト教をおいています。イエスはその生涯を通じて、人が人として当たり前に交わり、喜び、安らぐこと、そのためには“平和”をつくりだすことが何にもまして大事であることを、身をもってあらわしました。

だからこそ、あらためて、今の社会の在り方を見つめつつ、イエスがそうであったように、平和をおびやかそうとする流れにあらがい、子どもたちとともに育ちあっていきたいと願っています。



桃陵乳児 桃陵保育園全員のペーペント

(プライバシー保護のため画質を落としてあります)

○木村量好のこと

桃陵乳児保育園の創立者であり前園長であった木村量好は、2018年10月31日朝、神のもとに召されました。86歳でした。

「心を通す」、「子どもたちひとりひとりを大切にする」、「丁寧な保育を心がける」、これは彼がよく語っていた言葉です。そしてそれは、桃陵の保育を一言で表す言葉もあります。ただ、言うことは簡単ですが、それを実際の保育に活かすのはとても大変なことです。

彼はそんな育て方のとても難しい小さな種をまき、50数年をかけて育て、そこから生まれた新たな種の守りを私たちに託しました。

それをしっかりと受けとめ、さらに大きな何かを育てていく歩みをこれからも続けていきたいと思います。

園長 宇野豊

トピックス

天使保育園建替え工事決まる

長年夢物語のように語っていた天使保育園の全面建て替えが、いよいよスタートいたします。友隣館の建物は築 55 年経過し、天使ベビーセンターが築 49 年、天使保育園が築 41 年と続き、老朽化が著しく今でも雨漏りが止まりません。職員も雲行きが怪しくなると素早くバケツを並べ、その対応力には感心いたします。

予定では 11 月から近隣の借地に仮設保育園を建て、1 月に天使保育園の子どもたちが仮設保育園へ引っ越しします。その後、解体及び新築工事で 1 年掛かります。出来上りましたら今度は天使ベビーセンターの子どもたちが仮設保育園に引っ越しして、同じ要領で解体及び新築工事を行います。全工程で 2 年半ほど掛かる大掛かりな工事となり、また仮設園舎も初めての体験ですので、不安ばかりが募ります。

実際、鉄筋コンクリート 3 階建てを解体するとなると、その騒音



職員の同窓会

と振動は想像を絶するものと思われます。先日も近隣住宅へ挨拶に回りましたが、皆様「どうぞどうぞ遠慮なくやってください。子どもたちの為ですから。」と言ってくださり、少し安心しました。よくよく聞くと保育園とゆかりのある方々が殆どで、70 才を越える卒園児であったり、孫が在園であったりと、此花の地域で永く続けている歴史を感じる瞬間でした。

また先日は、この建物とのお別れ会として職員の同窓会を行い、50 名程の先輩方々が、遠方からもかけ付けてくださいました。昔の厳しい時代を知る職員は恐怖におののき、朝から徹底的に掃除を行って先輩方々との再会を喜び合いました。当日は和やかな雰囲気の中、天使保育園での昔話に花を咲かせ、寮での生活や伝統的新任職員の出し物の話、建物との別れを惜しむ声などを聞くことができました。

小川先生を始め、多くの先輩方の働きがあって今があることを実感し、この歴史と人と人、地域との繋がりを守りつつ、感謝して新築工事を進めたいと思います。

皆様の温かいご支援とご協力をどうぞ宜しくお願ひ致します。

天使保育園 園長 嶋田良介

2018 年 4 月より、港島児童館の指定管理を受けました。

神戸市中央区ポートアイランドで社会福祉事業を行っている社会福祉法人の中から、最終的にイエス団に神戸市からの依頼がありました。

ポートアイランドでは、神戸市立医療センター中央市民病院の院内

保育園として杉の子保育園をイエス団が運営をしています。そして中央区では、友愛幼稚園、二宮児童館、学童保育ひまわりで子どもたちの事業を行っており、その実績を買われ、イエス団に白羽の矢が立ったということです。



児童館は、子どもたちにとって大切な事業です。18 歳までの子どもたちの居場所として、また誰でもが利用できるオープンなスペースとして、もっと展開していく場面があるのでないかと思います。



神戸市は学童保育も児童館が担ってきました。学童保育のニーズも高くなり、高学年の受け入れ、19:00までの運営も進んでいます。また地域の民生委員や小学校の先生、自治会の方々に運営委員になっていただき、ご意見をいただきながら進めていく形を取っており、本当に地域にどっぷりと入り込んで運営をしていくことが可能だと思います。



ポートアイランドには外国籍等の人たち、子どもたちの在住率が高く、児童館として、そのような子どもたちに対して何ができるのか、地域のさまざまな課題に取り組んでいける児童館としてやっていきたいと思います。ポートアイランドという地域で、私たちは何ができるのか、地域は何を必要としているのか、考えていきたいと思います。

港島児童館 館長 馬場一郎

馬見労徳保育園の取り組み「日中一時支援事業」

日中一時支援事業は、障害者自立支援法に基づき、市町村が地域生活支援事業として行う事業です。

きっかけは、2011 年 4 月、3 月に卒園した保護者から、4 月に就学してから保育園と違って、児童デイサービスでは利用者が多く毎日預かってもらえない、下校も早いので仕事が続けられない。また、別の卒園児の保護者からは学童保育では預かってもらえない、これまでの仕事ができないという話を聞き、月 60 時間以内の利用という制約はあるものの、それでもありがたいということで 2011 年 7 月より日中一時支援事業を開始しました。

当時、馬見労保育園には実績がないということで、役所が委託契約をしてくれませんでしたが、ちょうど給食用のパンを納入していただいている社会福祉法人が、すでに役所と委託契約をして活動を行っていることを知り、その法人が馬見労保育園の一室で行うという形で実施可能となりました。

2011年以来その法人のもとで実施してきましたが、2017年度末で事業を廃止することになり、それを踏まえて役所と半年以上の交渉の末、役所と馬見労保育園の直接契約の承認おり、2018年度以降も事業継続可能となりました。



日中一時支援事業を行う保育室

保育園で日中一時支援事業を行っている例は、あまりありません。利用者は少人数で、学校まで迎えに行ったり送迎バスを待って迎えたり、事業自体の採算性は難しい面があります。し

かし、保育園に登降園する園児や保護者、卒園児と保護者や地域の人たちとともに生きているというメッセージ、そして、イエスの愛に倣い、互いに支え合う、最微者に仕えるというイエス団憲章と使命は賀川精神を受け継ぐという意味で、保育園で行うことにつきな意義があると思っています。

支援が必要な子どもたちは増加傾向にあります。今後は、支援の必要な子どもたちの早期発見と少しでも早く対応・改善に向けて取り組む児童発達支援事業を立ち上げて、地域の保育園などと協働しながら支援の必要な子どもとその家庭の役に立てればと思います。

馬見労保育園 園長 斎藤浩敏

J.B. フェローズ活動報告

大阪ブロック

2018年度の活動は以下の4点を中心に進めました。

- ① 施設訪問を行うことで理解を深め、お互いの学びとする。
- ② 職員通信を発行してつながりを深める。
- ③ 震災復興支援について
昨年度までタオル販売を行っていましたが、今年度は新たに、靴下を物品販売し、収益を支援としてすすめています。
- ④ 給食室の交流会を昨年に引き続き行う。
J.B.担当ではない職員も参加できる者は参加する事で交流を深め、J.B.の取り組みを周知するようにしました。

① 施設訪問

「8月30日（木）聖淨保育園公開保育・施設見学」



行事に繋がるようなお店さんごっこを中心公開保育を見学させていただき、子ども達と一緒に触れ合いの時間を持ち理解を深めました。また昼からは意見交換を行い、各施

設の話を聞く事でそれぞれの学びや刺激となり、悩みなどの共有も出来ました。

「豊島合同夏まつり・長島愛生園研修」

四国、京都、兵庫ブロックと共に協力し参加させて頂きました。

「10月25日（木）天使保育園公開保育・施設見学」

普段の保育を幼児クラス中心に見学して頂き、色々なコーナー遊びを、子どもたちと関わりながら楽しんで頂けました。

また、職員の方と

意見交換会を行
い、施設・保育園
に共通する悩みな
ど共有し、良い学
びの場となりた。



天使保育園での情報交換

② 大阪職員通信

第16号発行（10月末発行）

- 内容：
・聖淨保育園施設見学報告
・ハンセン病研修報告
・豊島研修報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教Q&A



第17号発行予定（1月末発行予定）

- 内容：
・天使保育園施設見学報告
・豊島研修報告
・給食室交流会報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教Q&A

③ 震災復興支援について

昨年度業者が生産を取り止めてしまった為、今年度は新しく靴下の販売を通して、支援していく方向で進めています。意見としては、震災を忘れず伝えたいといふ思いから、現地の保育園とつながりを持っていきたいと思っています。

④ 給食室の交流

11月8日 愛之園保育園にて行う

- ・各クラス見学、厨房見学
・乳児、幼児クラス給食見学
・職員同士で意見交換を行う



情報交換のようす



⑤ 大阪ブロック会議

1回目：5/10 2回目：8/30 3回目：10/25 4回目：2/12 予定

報告：大阪ブロックリーダー

天使保育園 竹本宜弘

四国ブロック

2018 年度の四国 JB フェローズは

- ① 豊島研修企画「農民福音学校で麦の収穫」
- ② 長島愛生園ハンセン病研修の参加
- ③ 瞳保育所・豊島ナオミ荘 合同夏祭り企画依頼・参加
- ④ かがわ子ども・子育て支援センター施設訪問、
熊本復興支援講演
- ⑤ 各施設の子どもたちの作品の送り合い
の活動を JB 担当でない職員も参加することで交流を深めようと活動してきました。

① 豊島研修企画「農民福音学校で麦の収穫」

全ブロックから合わせて 4 名の参加でした。参加人数は少なかったですが、その分密度の濃い時間を過ごすことができました。麦の収穫の予定でしたが、麦の生長が早く、研修前に収穫を終わらせてしまいましたが、大豆の豆撒きや桃の収穫、レモンの手入れなど、

自然に触れ、自然の道具を使った農業体験をすることができました。

② 長島愛生園ハンセン病研修の参加

研修に参加する前にはハンセン病について詳しく知らなかったけれど、ハンセン病研修に参加したことのある職員に事前に話を聞いたことをもとに、実際に研修に参加して、さらに学びを深めることができました。誰かに伝える際には、正しく病気のことを伝えていかなければいけないと感じました。これからもハンセン病について積極的に学びたいと思います。

③ 瞳保育所・豊島ナオミ荘 合同夏祭り



JB フェローズは「アニマルポイポイ」という種目を担当しました。子どもたちやナオミ荘の利用者さんとも楽しくふれあうことができ、幅広い年齢の人が楽しめるゲームになったように思います。主目的であった、ふれあいや交流をたくさんすることができました。準備も早くスムーズにできましたが、課題となる事もあったので、今後に向けてみんなで検討していくたいと思います。

④ かがわ子ども・子育て支援センター施設訪問、 熊本復興支援講演

保育園と乳児院が隣にあるので、両方の施設を見て回りました。



保育園と乳児院の違いを知ることができました。乳児院は家庭的な雰囲気で老人ホームとの違いも感じることができました。神愛館は豊島での歴史が終わったわけではなくて、坂出で続いていることがわかり、良かったと思いました。

田中仰先生の熊本復興支援の講演を聞き、災害がいろんなところで起こっている今、人事ではなく、自分の住んでいるところに災害が起きた時のことを真剣に考え、備えていかなければ改めて思いました。各施設内で、避難場所、保護者などへの連絡を見直したり、地域連携も考え直したり、備蓄や避難経路の確認を職員間で情報を持ち合い、把握や共有しておくことが大事なのだと感じました。

⑤ 各施設の子どもたちの作品の送り合い

子どもたちが作った作品を豊島夏祭り・敬老会で送り合いました。各施設で受け取った作品を飾り、その写真を送り合うことで、子どもたちも自分たちが作った作品が飾られている様子をみて、とても喜んでいました。また、その写真を各施設の掲示板などに掲載することで、保護者にもイエス団の他施設のことを知ってもらうきっかけになればと思っています。今後も作品の送り合いを行っていきたいと思います。

報告：四国ブロックリーダー
育愛館 竹垣美紀

兵庫ブロック

今年度の兵庫ブロック交流会は 9 月 8 日に第 7 回目を無事行う事ができました。

今年の研修は「B C トータルバランスシステム研修」をひろ整骨院の東本博聖さんを講師に迎えて行いました。日々の生活や仕事で疲れたり、痛い部分が出る身体を根本的に直そう！という事から、呼吸法がとても大切である事を教えて頂き、実践をたくさんしました。



普段の研修とは違い、体を使うもので近くの人とストレッチや体操をする事で自然に触れ合い、言葉を交わし、時に笑い声が

混じったりと和やかな雰囲気の中で行う事ができました。それぞれの生活の中で健康である事の大切さを感じた時間になりました。

それから、研修の後の交流会では初の試みで乳児、幼稚、給食室と担当ごとにテーブルを分けて行いました。互いの悩みや考えを話す良い機会になったのではないかと思います。



来年度以降も楽しい雰囲気で行われていけばいいなと願います。

そして、毎年行っている施設訪問研修は 5 月 30 日に杉の子保育園でした。

1月には神視保育園で予定しています。

園長先生や先生達の事を「〇〇マン！！」などとあだ名で呼んだり、事務所の事を「リビング」と呼んだりとあったか雰囲気の保育園との感想でした。毎年続いている施設訪問研修ですがブロックを超えて色々なブロックの施設訪問も出来るようにならいいなと反省で出ていました。互いに出来れば更に振興も深まり、良い繋がりにもなるのではと期待します。

報告：兵庫ブロックリーダー
一麦保育園 武田由美

京都ブロック

2018年度のJBフェローズ京都ブロックの活動は、

- ① 「発達障がいに関する意見交換会」
 - ② 「給食に関する意見交換会」
 - ③ 「JB F京都交流会（JB F京都大作戦2018）」
 - ④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」
- の4つの活動を主に行ってきました。

① 「発達障がいに関する意見交換会」

今年は各施設から事前に質問事項を集め、今村先生に講演会を行って頂きました。今村先生の活動・実体験等をもとにわかりやすく話して頂き、大変貴重な時間となりました。意見交換会は、今年度も引き続き各施設から事例を持ち寄り、情報を共有し、より良い関わりを考える場にしていくことを考えています。

② 「給食に関する意見交換会」

年3回各施設の調理職員が集まり、献立作り・レシピ・提供する器・食育の評価等の情報交換や意見交換を行っています。

③ 「JB F京都交流会（JB F京都大作戦2018）」

今年は、6月に桃陵保育園ホールで行いました。毎年「交流」をテーマに行ってきました。今年は「困ってる？悩んでる？みんなできこう！」をテーマに加え、より職員が寄り添えるように考えました。普段交流の少ない他施設の職員とより横の繋がりが持てる様に、今後も計画を考えていきます。

④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

今年も「2施設合同夏祭り」を豊島の担当者でお手伝いさせて頂きました。

「豊島研修」も継続して行ってきた企画です。

豊島の方々、各ブロックの方々の御協力を頂きながら続けてきた「みんなのレモン」は3年目になりました。去年、畑を耕し、麦を蒔き、収穫まで行う事が出来た麦。今年も行うことができました。継続してきたことが実を結び始めた事は感謝です。



地元の方に教わりながら麦畑を耕しました。



「長島愛生園研修」では、資料館の見学、当事者の方の体験談、当事者の方々を囲んでの懇親会を通じてハンセン病問題が理解出来る貴重な機会となりました。翌日は、長島愛生園内の海岸の掃除を行いました。これからも継続して研修等を行って行きたいと考えています。



2018年度は、「豊島研修」「長島愛生園研修」等、全ブロックで継続してきた研修が実を結び、成果が出始めましたと同時にこの成果をどう繋げていくかという課題が出てきたように思います。今日まで研修等で築き上げてきた成果と課題すべてを糧とし、ブロックの枠を越えた交流や助け合いをこれからも行いたいと思います。JBフェローズの活動は次年度もより柔軟に一人ひとりの大切な「聲」に耳を傾け、もっと大きな繋がりの輪が出来る様に実践していきます。

報告：京都ブロックリーダー
宇山光の子保育園 荒木 健



3年かかって初収穫の時を迎えた「みんなのレモン」
関わってくれたすべての方に感謝。



イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿して頂きます。

8回目は、理事の田村三佳子さんから、理事の上内鏡子さん。京都ブロック：杉本基晴さん（ゆうりん）から阪口陽子さん（空の鳥幼稚園）四国ブロック：倭実咲さん（光の子保育園）から須藤恵子さん（豊島ナオミ荘）、大阪ブロック：北川理恵さん（愛之園保育園）から木本敦子さん（天使虹の園）、兵庫ブロック：根口京子さん（杉の子保育園）から木村ともさん（神視保育園）です。



社会福祉法人イエス団理事
日本基督教団神戸イエス団教会 牧師
上内鏡子さん

「三法人の狭間で」

イエス団の関係者のみなさん、こんにちは。わたしは、2004年に日本基督教団神戸イエス団教会の牧師として赴任してきました。一人の牧師として、遣わされる教会はどこにでも赴くことを決心して、神戸イエス団教会という赴任教会に臨みました。けれども、残念ながら、社会福祉法人や学校法人のイエス団に特別な思いをもって就任したわけではありません。前任地が大学と関係していた教会だったので、学校と宗教という2つの法人の間での牧師の働きを見て來いました。だから、新しい赴任地は、教会オンラインの環境で牧師の仕事がしたかったです。ところが、神さまはそのようなわがままな心の内を見抜いておられます。神戸イエス団教会は、3つの法人が重なった超特異な環境の中にある教会でした。そこで、繰り返し教えられたのが、「神戸イエス団教会は、フラッグシップ・チャーチだから、3法人の中心にあって、人々や関係団体に仕えることが求められている」ということでした。「エライところへ来たものだ」と、正直いうと悩みました。なるべく教会の仕事以外は控えめに、とにかく、「教会内の祈りと御言葉の靈的な働き」に集中したいと考えていました。

しかしやがて、教会の牧師としての働きをするにしたがって、教会という宗教法人の部分だけを隔離して仕えることに困難を覚えました。なぜなら、教会の礼拝や活動に参加し、教会の責任に従事する人々は、多くは社会福祉法人／学校法人イエス団（以下、イエス団）に関係する人々が多く、また、職員でなくとも、イエス団の施設を利用する方々が深く関わる教会だったのです。イエス団の歴史や理念を充分に理解し、そこに関わる人たちと深く交わりを持つことがなければ、神戸イエス団教会の働きは全うできないということにも気付きました。

神戸イエス団教会のパンフレットに「教会の祈り12」が掲げられています。毎主日礼拝に一つずつ、教会で唱えているのですが、その中に、「この教会の賜物を館内・関係団体の喜びのために用いてください。」と、「地域に仕える教会として、み旨に適った働きをなしてください。」という祈りがあります。教会はいつもイエス団や地域と共にあることを祈りのうちに覚えています。「喜びのため」というのは、おかしいじゃないかという意見もあるのですが、他者の喜びのために仕

えることほど、神に祝福されていることはないと、わたしは思います。そして、この2つの祈りを含めた「教会の祈り12」は、社会福祉・学校・宗教の3法人を覚え支える大切な祈りであると改めて思います。

そして、最後に思うのです。この小規模の神戸イエス団教会が、祈りと働きを通して、イエス団に連なるとしていると同時に、フラッグシップ・チャーチとして期待されている神戸イエス団教会にも、ぜひ社会福祉法人や学校法人から連なってくださればなあと。日々の関わりの中で、このような思いを伝えることが、わたしの役割だと認識しています。評議員や理事としての立場もこの役割の一つとして捉えています。宗教法人の神戸イエス団教会のためにも、ぜひ関心を持ち、祈りに覚えてくださればうれしいです。

次回は、中野敬一理事です。アメリカのカリフォルニア州にある日系人教会で幼稚園設立を手がけ、頌栄短期大学では保育の基盤となるキリスト教教育に携わってこられました。現在は神戸女学院大学で教鞭をとっておられます。広い視野で、キリスト教幼児教育や福祉に関わっておられた中野理事より、イエス団に関わる想いなど期待したいところです。



京都ブロック
空の鳥幼稚園 阪口陽子さん

「道標(みちしるべ)」

2001年から空の鳥幼稚園でお世話になっています。当時の私は、医療の世界から福祉の世界に飛び込み、「障がいのあるお子さんの生活を支援していきたい」という思いを抱き、新たな環境で希望と不安を感じていました。そんな中、イエス団新任職員研修会に参加し、イエス団に連なる者としての心構えや今後の自分の働きを明確にするため、数々の先生方のお話を伺いました。また研修を共にした沢山の仲間と語り合い、一施設だけなくイエス団という繋がりを感じ、同じ思いの仲間がいるのだと心強さを感じる研修となりました。

その後数年間は、自分に何が出来るのかと精一杯の毎日でした。今から思うと、自分の思いが先走り、ご家族の思いを傾聴することよりも提案が多く、支援者として未熟だったと思います。同じ敷地内にある愛隣館の先輩方や仲間から、大切なのは子ども一人ひとりの小さなサイン・表現から、その時の子どもの思いに気付ける感性を持つ事と、ご家族の思いを傾聴し、喜び、困り、不安な思いを共に分かち合える、心の伴走者になる事だと教えていただきました。

年数を重ね、イエス団幹部職員研修会や沖縄平和研修に参加する機会も頂きました。施設内での働きだけでなく、地域の中で求められている事に気付き、創り出していく姿勢を持つことが、イエス団に連なる者の共通点だと感じる機会になりました。自分の地域で出来ることは何なのか、少しづつですが、広い視点で考えるきっかけを頂きました。

イエス団での18年間を振り返ると、私の人生の道標は、イエス団に連なることで考えさせられ、深められていったのだと思います。この道の先輩方の日々の姿勢から学び、福祉に携わる者としてイエスに倣った働きをしていくということ。また、仲間の考え方や行動に刺激を受け、共に悩みながらも協働していく大切さを学ぶ日々。イエス団として横の繋がりの中での視野の広がり。それら全てが私の道標となり、

今の自分があると思います。

イエス団に連なり、出会わせていただいた方々や学びの機会に感謝すると共に、MS2009という道標を胸に、これからも励んでいきたいと思っています。

次号は、日々の働きに学びを頂いています、京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」を指名させていただきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。



四国ブロック
豊島ナオミ荘 須藤恵子さん

「共に笑顔で」

豊島ナオミ荘に勤めて3年目となりました介護士の須藤です。

元々は看護師として仕事をさせて頂いてましたが、今年4月より介護士として働くことになりました。

今回、イエス団の輪でバトンをもらい、テーマについて考えました。本当のところ、ここに就職するまでキリスト教には全く縁がなく、イエス団についてもよく知りませんでした。

就職してからちょうど1年が経つ、2017年3月に神戸の六甲でイエス団の新任職員研修会がありました。一泊二日の短い時間でしたが、法人の理念や使命を学び考える良い機会となりました。

新任職員研修会では、各地域の様々な施設から集まったイエス団のみなとと共に讃美歌を唄い、聖書の言葉を読み上げました。このことで改めて自分がイエス団に入ったことを実感したのを覚えています。

さて、研修では、新任ではあるが実務経験者のグループで班分けされました。このグループワークを通じての意見交換や、それぞれの思いや悩みを話し合うことで、お互いに頑張ろうという仲間意識が強まりました。

また、自分のことを見つめ直して振り返る機会にもなりました。このことは、とても良い経験になったと思います。

そして最近では、8月に瞳保育所との合同夏祭りがありました。初めての実行委員でわからないことばかりでしたが、他メンバーや関係者みんなの力を借りて無事に終えることが出来ました。

夏祭り当日には、イエス団の各施設やJ.B.フェローズの方々がお手伝いに来て下さいました。

四国ブロックの光の子保育園や育愛館からは園児達が作った沢山の作品飾りを頂きました。改めて仲間意識を実感すると共に、とてもありがとうございます。

ところで話は変わりますが、ナオミ荘の入所者さん達は高齢であり、1年先のことは分かりません。共に成長するというよりは、共に日々を生きるという感じです。毎日を大切にすることで、その方に寄り添えるのではないかと思っています。

私自身、生活していく中で、良い事ばかり続く訳ではありません。嫌な事やどうしようもなく辛い時もあります。

そんな時、入所者さんの何気ない笑顔に励まされ、今日も1日頑張ろうと逆に元気を貰う事も多くあります。

MS2009に「わたしたちは隣人と共に生きる社会をつくりだす」とあります。私は、隣人と共に「笑顔」で生きるを個人目標として努力を続けていきます。

最後にバトンですが、同じ豊島で頑張っている瞳保育所さんにお渡し致します。



大阪ブロック
天使虹の園 木本敦子さん

「導かれた場所」

この度、愛之園保育園からバトンを受け取りました、天使虹の園の木本敦子です。

私は天使保育園でお世話になり、30年になります。私は物事を決断する時に先の事をあまり考えず、直感で決める事がが多いのですが就職を決める時も「ここに決めた！」と迷いもなく決断しました。

面接は四貫島友隣館の教会でありました。園の雰囲気などから、「やはり、ここに決めてよかった」と感じた事を思いだします。

その後就職が決まり、今は亡き祖母にその話をすると、「そこは空襲の時に疎開した、場所だよ。」と言われ、その時は「そうなんだ」とあまり深く思いませんでした。

保育士になり、何年か毎に「違う仕事をしようかな」と考えるようになり、当園長だった、小川居先生との面談で、話をしました。その度に的確なアドバイスをもらいました。また、「あなたの笑顔はいい」と言われた事があり、それが嬉しく、それからは、「辞めよう」という気持ちが落ち着いたようにおもいます。

それから、今まで色々な事がありましたら、たくさん的人に助けてもらなながら、保育をしてきました。

天使の保育は、一人一人の違いを認めながら、一人一人が生かされ愛されている事を大切にしています。自然とのかかわりも大事にし、栽培をし、収穫、調理まで、子どもたちにとって、よい経験をたくさんしてきました。私自身も天使で保育する中で、よい経験をし、成長出来たと思います。そのような保育が私は好きで、30年続けてこれたのかなと思います。

また、今思うと、亡き祖母に聞いた話が思い出され、「私がここにいるのは導かれていたのでは」と思うのです。だから、直感で決める事ができたのではと。このように、縁があり、イエス団の施設に導かれたからこそ、その精神を大切にしていかなければならぬ、と思うようになりました。

しかし、最近の私は人との違いを認められずイライラすることも多くなりました。その時に「違いを認めあう」「隣人と共に生きる」とは、どういう事なのか?と考え、今まで自分がたくさんの人に受け止めてもらい、生かされてきた事を思いだし、初心にかえらなければ、と感じています。

イエス団の方とはあまり、お会いする機会がないですが、研修などでお会いして話をすると、「同じ思いで保育されているなあー。」と安心でき、ほっとする時間もあります。これからも、その機会を楽しみにしていきたいと思います。

次回は、天使ベビーセンターにお願いしたいと思います。

表紙写真の解説



兵庫ブロック
神視保育園 木村ともさん

「イエス団と私」

このたび、杉の子保育園からバトンが回ってきたので書かせていただきます。神視保育園、保育士4年目の木村ともと申します。

せっかくなので、軽く自己紹介をさせていただきますね。私の名前の「とも」は漢字ではなく、平仮名になっています。小学生の時は「漢字つかわんし、めっちゃや楽やん！」と理由などなにも考えずに過ごしていました。中学生ぐらいの時にふと名前が平仮名の理由が気になり、父親に「なんで名前、ひらがななん？」と聞いたところ、「性別が分かる前に決めてたから、ひらがなやったらどっちでもいいけるやろ」との返答で「なんめちゃくちゃな…」と感じたことを覚えています。ついでに「とも」の意味を聞くと、「様々な人たちと共に生きていってほしい」と教えてもらいました。当時は「共に生きるってなんや?」と感じていたと思います。その後、すくすくと大きくなり、就職を機にイエス団で働かせていただくことになりました。

1年目の時はイエス団の「のぞみ保育園」で3歳児クラスの担任を持ちました。覚えることがたくさんあり、毎日があつという間に過ぎていたと思います。それでも子ども達は本当に可愛くて、日々の関わりの中で、たくさんの成長に気付いていけるようになりました。子ども達と一緒に過ごして、毎日の楽しいことや嬉しいこと、つらいことや悲しいことを側で見守り過ごしていくなかで、こういうことが「共に生きる」ということなのかな?と少しづつ感じられるようになりました。その後、ご縁があり現在働かせていただいている「神視保育園」に異動することになり、そこでもたくさんの子ども達や保護者の方々、職員の方々と出会うことができました。この園でも様々なことを学ぶことができましたが、特に感じたのが、人と関わるということは簡単なことではなく、その人の思いに気付き、寄り添そっていくことがとても大切だということです。この話を始めてしまうと、とても長くなってしまうので、また機会があればお伝えしますが、自分自身がその難しさを感じながらもこれからもたくさんの人たちと出会い、関わらせてもらうなかで、「共に生き、共に育つ」という気持ちを大切にしながら成長していきたいと思います。

長々と書かせていただきましたが、私はたくさんの人と出会いたいという思いで、もしかしたら皆さんのお園にもお邪魔することがあるかもしれません!その時はよろしくお願ひしますね!笑

次は甲子園二葉幼稚園さんよろしくお願ひしまーす!



写真上から①～⑥の順
自然是子どもにとって最も偉大な教育者です。

①

みどり野保育園

秋が深まり、穂が垂れ始めました。みんなの「お米」守ってね!

②

天使保育園

大好きなわらべうたあそび。先生の手ってあたたかい。

③

友愛幼稚園

お世話になっている病院の先生に花の日礼拝のおすそ分け。

④

天使ベビーセンター

違っていいね。

⑤

甲子園二葉幼稚園

2歳児 大好きな海を見ながら、おやつタイム

⑥

愛之園保育園

次号に向けて、施設職員の皆さまからの写真を募集しております。M.S2009の取り組みをイメージするような写真で、個人情報保護の条件がクリアできているものをお願いいたします。

編集後記

木村量好 第五代理事長が、去る10月31日の朝、神のもとに召されました。86歳でした。神の平安を祈ります。

木村量好先生は、1958年大阪・四貫島の吉田源治郎先生の元で、地域活動に根差した伝道という人生の指針を得られ、京都伏見に桃陵乳児保育園、桃陵保育園を始められました。その後京都八幡で開拓伝道の拠点として八幡ぶどうの木教会、ぶどうの木保育園、京都向島で愛隣館研修センターを始められ、「実社会とつながって行動すること」「祈ること」を両輪に、堅実な歩みを進めて来られました。

木村量好先生のこれまでのお働きに感謝するとともに、賀川精神を引き継がれた木村量好先生に学ぶべく、改めて追悼の特別号を編集、発行させていただきます。

今年も多くの方々に支えられ祈られて歴史を刻んできたこの創立記念日(12月24日)にイエス団報第21号を発行することができる恵みに感謝するとともに、イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

イエス団報編集委員会